

## 【実践報告】

# 教育実習Ⅲ（幼）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 教授 善本 桂子 准教授 田中 嵩教

## 1 はじめに

幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する学生を対象とした「教育実習Ⅲ」（4年前期開講）は、学生の出身園など希望する幼稚園、認定こども園において実習を行い、幼稚園教諭として必要な実践的知識・技能を身につけることを目標にした科目である。

各自が目標を掲げて実習を行うことで、集団及び個別の子ども理解を深め、幼児教育の理論をもとに、子どもの要求に応じた保育を展開する力を養うことを目的とする。

## 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
内諾手続き	3年次 8月～12月	・2015年7/1 内諾説明会（学生サポート課） ・希望園への電話連絡と実習先の決定 ・内諾訪問と実習期間、およその実習内容の決定
事前学修	4年次前期 4/13（水） 4/20（水） 4/27（水） 5/18（水）	・これまでの実習の振り返り（教育実習Ⅱ、保育実習ⅠⅡの実習記録より） ・実習日程と内諾の確認 ・実習先への事前訪問、実習内容の確認 ・実習費等諸経費について（学生サポート課） ・実習準備の個別支援（目標と課題、保育指導案） ・実習前・中・後の諸注意と心構え ・巡回教員の確認と教員への挨拶（事前訪問、実習内容の報告） ・事後学修について（実行委員選出と報告書・報告会について）
実習 （10日間）	5/30～ 6/10	実習の内容は、各幼稚園、認定こども園の計画による。主に ・観察・参加実習 ・日誌作成 ・保育指導案作成と設定保育 ・半日保育・全日保育など責任実習 ・日常業務
事後学修	6/15（水） 6/22（水） 6/29（水）	・実習の振り返りと報告書作成 ・事例を挙げてグループ討議（2回） ・全体報告会に向けての資料作成 ・全体報告会（1～3年生の参加） ・自己評価票の記入と評価開示面談

### 3 実施の概要

3年次に母園を含む近隣の幼稚園、学校法人認定こども園で内諾を済ませた4年生54名が、平成28年度「教育実習Ⅲ」を実施した。その地域は広島市、廿日市市、東広島市、呉市、三原市、三次市、庄原市、安芸郡府中町、山口県岩国市、周南市、山口市、下関市、島根県松江市、出雲市、愛媛県松山市、大洲市と16市45園に及ぶ。

(1) 事前学修 これまでは全体学修2回、個別指導を3～4回行ってきたが、今年度は目標と課題・指導案は全体での確認後、友人同士で見合うことができるよう事前学修の時間に組み入れた。最後の実習となるため、これまでの実習を振り返り、油断ないようにそれぞれの事項について学生同士で確認し合うよう声をかけ、教員が見守りつつ確認した。

(2) 実習 5/30（月）～6/10（金）の予定であったが、園の行事により5/28（土）開始の学生がいた。また、同じく行事で6/13（月）までの学生もいた。概ね2週間（10日間）での実施であった。園によっては行事や通常保育のため土曜出勤もあったが、体調不良等での欠席や遅刻・早退などの学生はいなかった。

(3) 巡回指導 幼教教員と幼教ゼミ担当教員計8名が巡回指導を行った。内訳は、巡回訪問（広島県内すべてと山口県岩国市）32園41名、電話訪問（山口県・島根県・愛媛県）13園13名であった。巡回訪問は、あらかじめ連絡を取り直接訪問し、実習を行っている学生の様子を把握し、可能な限り学生と話をさせていただき、園長または実習担当教諭との面談を行った。また、電話訪問の場合は、すべての園へ実習開始までに手土産を送付し、複数回電話をかけて学生の様子を詳しく聞いた。

(4) 事後学修 学生の実行委員が中心となり、報告書に記入する項目を挙げ、事前に書式を作成して実習に臨んだ。内容は、事例（背景・経緯・事後の考察）、実習園の特徴、設定保育について、後輩へのアドバイス、歌・絵本・手あそび、今後の課題である。学生1人ひとりが報告書に沿って具体的な視点で実習を振り返り、報告書の事例についてグループ討議を重ね、共通理解して全体報告会に臨んだ。そこでは学生同士で活発な意見交換を行う様子が見られた。報告会后各自で再度振り返りを行い、自己評価票に記入したものを持参し、参考にしながら評価開示個別面談を行った。

### 4 成果と課題

(1) 報告会（グループ討議、全体報告会）について 報告書の書式が具体化されたことで、実習中の事例について、観察しつつかわることができ、事後に考察して新たな課題を見つけたようである。そのことをグループ討議において話題にし、友だちの意見を聞き、さらに学びを深めている様子がみられた。

(2) 評価について 今年度の実習先からの評価を確認したところ、「勤務の状況（82%）」および「協力的態度（65%）」「研究態度（61%）」の諸項目はa評価を頂いた学生が多くみられる。その反面、「幼児の理解【発達理解】（82%）」および「集団の理解【幼児集団へのかかわり等】（78%）」「環境の理解【保育環境の理解】（69%）」「基本的指導力【言葉遣い・視野の広さ等】（67%）」の諸項目でb評価を頂いた学生が多い。保育職への意欲を示せてはいるものの、実際の園環境下に身を置きつつ生の幼児（幼児集団）を理解したり、関わったりする点で心許ないと思われた学生像が浮かび上がってくる。勤勉さや真面目な態度、意欲だけでは求められる保育者像に遠いのではないかと。幼児を理解したり、取り巻く環境を理解したりするために、幼児により近づき、知らなければならない。教職実践演習（4年後期開講）においても、資質の補完や向上を図る多様なプログラムが予定されている。卒業までの残された時間を使い、ボランティアなどを通して幼児を知り、学生1人ひとりが実践力を身につけることに期待したい。